

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第1講 「研究」とは何か

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 『講義概要』 記載情報 + α

- ◆ 到達目標: 知的生産に必要な資料収集、読解、アイデア創出、論理的思考、批判、討論の技術を身につける。
- ◆ 授業内容・目的・方法: 「研究」とは、答えるに値する問いを見つけ、その問いに対して根拠のはっきりとした答えを導くプロセスです。この授業では、各自の問題関心にしたがって、問いを設定し、それについて調べて答えを出すプロセスを実際に体験することにより、研究の方法を身につけることをめざします。
- ◇ 教科書: 佐藤望ほか (2012)『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』(第2版) 慶應義塾大学出版会。(そのほか、授業での課題・宿題をとおして、各自で既存の研究成果を探して読むことになります)
- ◇ 成績評価方法: 授業中の課題と宿題 (50%)、学期末に提出するレポートと口頭試問 (50% : 主要な評価項目は、意味のある問いをたてて根拠のある答えを導いているかと、その答えに対する批判的な姿勢を持っているか)
- ◇ 備考: 授業時間外に、個別面談やグループ活動をおこなうことがあります (受講者の都合にあわせて日時を設定)。

2 この授業の目標

- 知的生産の技術
- 卒業論文を書くまでのプロセス
- 意味のある問いと根拠のある答え
- メディア、他人、自分自身の利用方法
- 批判することの重要性

3 授業予定 (おおよその計画)

- (1) 「研究」とは何か (10/3)
- (2) 自己紹介と卒論紹介 (10/10,17)
- (3) 本の紹介と議論 (10/24)
- (4) 問いの設定について面談 (個人またはグループ別: 10/26- の週)
- (5) 書店で本を探す (11/7 前後)
- (6) 本を読む (11/14, 21)
- (7) 図書館利用実習 (11/28 前後)
- (8) 情報の整理とアイデアの創出 (11/28, 12/5)
- (9) 他者との対話 (12/12)
- (10) プロジェクトとしての研究 (12/19)
- (11) レポート執筆について面談 (個人またはグループ別: 12月中下旬)
- (12) レポート執筆 / グループで連絡をとって報告打ち合わせ (冬休み)
- (13) グループで研究紹介と質疑応答 (1/9,16)
- (14) 口頭試問 (個人別またはグループ別: 1月下旬)

※ 受講者数によって、授業の進行が大幅に変わることがあります

4 注意事項

- 授業中の課題遂行のため、情報機器の持ち込みを推奨
- 課題・宿題・レポートは、コメントをつけて返却します (内容によっては再提出を求めることもあります)
- 授業資料用の宿題については、早めに来て、研究室でコピーしてください
- 教員からの連絡は、授業中の指示や教務係前の掲示板のほか、個人ブログ <http://b.tsigeto.info/school> (RSS フィード利用可) に出る場合があります
- オフィス・アワーは定めていません。教員への相談は、適当な時間に予約をとってください

5 受講フォーム記入

- 自分の問題関心
- 日頃使っている知的生産やスケジュール管理の方法
- ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況
- 週間スケジュール

6 レポートのフォーマット

- 問い
 - その背後にある大きな問い
 - 問いの学問的背景
 - 問いの社会的意義
- 答え
 - 必要な予備知識と前提
 - 答えの根拠
 - ありうる批判とそれをクリアする方法
- 問いを発展させる可能性
- 文献

7 今日の課題

卒業論文または修士論文から自分の興味に合ったものを一つ選ぶ

- 配布した一覧表を参考にすること
- 日本語教育学研究室の卒業論文・修士論文は貸出禁止 (閲覧・コピーは可)

8 宿題

自分の選択した卒業論文／修士論文 (日本語教育学または自分の所属専修のもの) について、内容をまとめてくる

- 自分の関心について
- なぜその論文に興味をもったか
- 論文の「問い」はなにか、それにどのような「答え」を出しているか、その根拠は何か
- 疑問や批判など
- 内容を発展させる方向性

発表は2回にわたって行う予定であるが、資料は全員作ってくること。

論文を読むにあたっては、教科書 pp. 84-90 を参考にすること。

年 月 日

現代日本論基礎講読 (田中重人) 受講登録フォーム

氏名 (よみがな):

学年:

学籍番号:

所属 (文学部日本語教育以外の場合):

興味のあること (非学術的な話題も可):

日頃使っている知的生産やスケジュール管理の方法:

ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況:

週間スケジュール (ダメなところに ×):

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					

現代日本論基礎講読「研究法入門」

卒業論文・修士論文について発表

田中重人 (東北大学文学部准教授)

名札作成 → 毎回 (互いに覚えるまで) 持ってくる

1 課題

各自の選択した卒業論文／修士論文 (日本語教育学または自分の所属専修のもの) について、5分以内で内容を説明。その後自由に討論。

説明のポイントは次のとおり：

- 自分の関心について (兼自己紹介)
- なぜその論文に興味をもったか
- 論文の「問い」はなにか、それにどのような「答え」を出しているか、その根拠は何か
- 疑問や批判など
- 内容を発展させる方向性

2 「議論」のふたつのモード

- 結論を出すための議論
- アイディアを出すための議論

今日は後者のモードで

3 次々回までの宿題

次々回授業時に、次のものを持ってくる

- 学術的な内容を含む本1冊
- その本の目次部分と奥付を1枚にコピーしたもの (2枚作成して、1枚は提出、1枚は授業で使用)

現代日本論基礎講読「研究法入門」

卒業論文・修士論文について発表(つづき)

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 論文のまとめかたについて

「問い」と「答え」はできるかぎり簡潔に

- 論文のどこからとるか?
- 複数ある場合も

「問い」を理解するのに必要な予備知識と、「答え」を正当化するための根拠は、すべて記述すると膨大になる

- その分野では普通の知識とそうでないもの
- 発表の際は、重要性に応じてとりあげる
- 調査や実験を行った論文の場合、対象者や方法について簡単に説明すること

批判と発展の可能性について

- 方法・技術についての批判
- 論理に基づいた批判
- 他の研究との比較
- 対象の拡大
- 別の問いへの発展

2 日本語教育学専修の卒業論文について補足

2.1 テーマ

過去の卒業論文の研究テーマは様々。日本語の教育に関するものは意外にすくない。多いのは日本語、日本語学習環境(ボランティアや年少者の問題を含む)、ひろく日本社会に関するもの(ファッションから家族問題まで)。

2.2 方法論

質問紙調査、インタビュー、メディア分析(日本語教科書を含む)が多い。そのほかに2次データ分析(社会調査データやコーパスの2次利用)、実験、参与観察、理論研究が少数。

2.3 卒論執筆のスケジュール

例年の卒業論文関連行事は次のような内容 (<http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/gakubu/sotsuron.html>)

4-5月: 構想発表会

6月: 中間発表会 (第1回)

7月: 進捗状況の報告会 (4年生と教員の個別面談; 年によって開催)

10-11月: 題目提出、中間発表会 (第2回)

11月: ドラフト (草稿) 提出

1月初旬: 卒業論文提出

1月末-2月: 論文発表会、口頭試問

今年度から、月1回の「卒論ゼミ」(4年生と教員)を行っているが、今後続けるかは不明

3 本のみつけかた

現在の学問の分野は「○○学」「○○論」といった専門分野に非常に細かくわかれている。自分の興味と学問の体系を結びつけて、どの研究分野でどのような研究がおこなわれているかを把握していくとよい。

本を探すにあたっては、その研究分野の基礎知識から身につけていくこともできるし、自分の興味のある具体的な問題に直接取り組むこともできる。

研究に関する本は、研究者向けに書かれたものから、一般の人を想定読者層とするものまで、さまざまである。最初のうちは、研究者向けの、いわゆる「学術書」よりは、基礎的なことを幅広く扱った入門書・教科書・新書などを読むのがよい。

避けたほうがよいもの: 論文集、資料集、事典、講演録

4 書誌情報

文献の同定に必要な情報を「書誌情報」(bibliographic information) という。本の場合、基本的な書誌情報はつぎの4つ。

- 著者 (あるいは編者・訳者など)
- 出版年
- 標題
- 出版社

状況によって、これに「版」や「シリーズ名」「標準番号」などが加わることもある。

日本で出版された本の場合、いちばん最後 (広告をのぞく) に「奥付」というページがあって、そこに書誌情報が載っていることが多い。海外での出版の場合は、たいていは、いちばん前 (タイトルページの裏面) に同様の情報がある。

5 次回までの宿題

次回授業時に、次のものを持ってくること

- 学術的な内容を含む本1冊
- その本の目次部分と奥付を1枚にコピーしたもの (2枚作成して、1枚は提出、1枚は授業で使用)

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第2講 本を読む (1)

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 本を読むモード

教科書 pp. 83-90

- 速読 (今日やること)
- 精読
- 批判
- 利用

2 書誌情報

- 書誌情報をどこから採るか (奥付の利用)
- シリーズ・叢書など
- 版
- 目次・索引・序文など
- 初出・履歴の情報

3 読書メモと情報の整理

- 読みながらの記録 (付箋・書き込みなど)
- 目次への書き込み
- 速読カード (教科書 p. 104) などへの記録と保存

4 速読の場合に読みとるべきこと

- 部や章の構成と、各章の役割
- キーワード
- 問いと答えのセット
- 根拠の基礎となる理論やデータ

5 次週以降予定

5.1 面談

来週 (10/31) は大学祭のため休講です。そのかわり、各自のレポート課題について、面談をおこないます。(日時は今日決定。)

5.2 書店実習 (11/7)

再来週は、書店 (東北大学大学生協文系書籍店) で本を探す実習をおこないます。どんな本を読みたいか、考えておくこと。

当日の流れ:

[10:30] 通常の教室で授業 (書店での本の探し方について)

[10:40] 文系書籍店に移動 → 好きな本を各自探す

[11:40] 教室に戻り、探した本について情報交換 (書誌情報 (著者・出版年・表題・出版社) のメモを提出)

その次の授業時 (11/14) に、次のものを持ってくること

- 現物入手 (買うか図書館で借りる)
- 目次と奥付のコピー (今回と同様)

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第3講 書店実習

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 書店実習

東北大学大学生協文系書籍店で本を探す実習

[10:40] 文系書籍店に移動 → 好きな本を各自探す

[11:40] 教室に戻り、探した本について情報交換 (書誌情報 (著者・出版年・表題・出版社) のメモを提出)

まず、店内の全体を回って、どのような配置になっているかを把握すること (おおむね、分野別の本が左側、新書や文庫が右側に配置されており、雑誌のコーナーが真ん中にある)。

自分の興味のある本を適当にさがす。手に取って、立ち読みしてよい。よさそうな本については、奥付を見て書誌情報を控える。

- 内容の見当を短時間でつけるには、どう読めばよいか? → 目次、前書き、あとがき、索引、参考文献の活用

静かに、節度を守って探索すること

2 次回予定

つぎのものを持ってくること

- 自分が興味をもった本の書誌情報のメモ
- できれば現物入手 (買うか図書館で借りる)
- 現物入手できた場合、その本の目次部分と奥付を1枚にコピーしたもの (前と同じ方式: A3などの大きな用紙に、余白をじゅうぶんにとってコピーする) 2部

今日の実習でじゅうぶんに探せなかった場合は、各自で空き時間に探しておくこと。

なお、東北大学附属図書館の所蔵は、つぎの URL で検索できる。

[フルブラウザ用] <http://www.library.tohoku.ac.jp/opac/>

[モバイル機器用] <http://www.library.tohoku.ac.jp/iecats/>

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第4講 本を読む (3): 精読

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 本の概要をつかむ

1 課題

各自で探してきた本について、次のことを議論する

- 主要なキーワードとその意味
- 章や節がどのような組み立てになっているか
- 自分にとって参考になること（あるいは面白い発見）はどれか。その根拠となるのは何か

2 書誌情報の書きかた

文献の情報（書誌情報：bibliography）をどう書くかについては、分野ごとに慣習が違う。日本語教育学研究室では、本の書誌情報はつぎのように書く。

著者（出版年）『書名』出版社.

シリーズ名や版表示などをつける必要がある場合は、書名の閉じかっこ』のあとに () でくくって示す。

3 キーワードを抜き出す

教科書 p. 86

- その本のなかで重要そうな単語や句
- 意味と用例
- 専門用語か; どの分野で使うことばか
- 類似語との異同
- ほかのキーワードとの関連

章ごとに3つ以上抜き出してみる

4 段落

学術的な文章では、段落 (paragraph) が基本的な構成要素となる

- 通常、ひとつの段落にひとつの主題 →キーセンテンスを見つける (最初にあることが多い)
- 段落をいくつか組み立ててひとつのセクションができる →セクション内で最重要の段落はどれか?
- 段落がうまく構成されているとは限らないので注意

5 読書から読みとること

- その本の主張したいこと
- 自分の研究にとって役に立つこと

研究が進むにしたがって、後者の比重が大きくなる。

6 次回の予定

次回は、今日とおなじ本について、一部に注目しての「精読」をおこないます。本の中から、自分が注目したいセクションを2つ以上選んでくること。

第5講 本を読む (4): 精読 (つづき)

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 今日の課題

教科書 p. 86, 103–105 を参考にして、本の中の2箇所以上のセクションを精読する

- 段落が4つ以上あるセクションを選ぶこと
- 「キーセンテンス」はどれかを考えること
- 目次コピーの上にそのセクションの構成を位置づけて考えてみる

2 情報の蓄積と整理の方法

- 本を読む習慣をつけること
- 雑誌と雑誌論文について
- その他の情報源
- 文献を読むときのメモ → 下線を引く、付箋を貼る、目次にメモ、コピーや写真を撮るなど
- 情報の整理 → ノートやカードの蓄積、デジタル技術の活用 (日経 BP 社, pp. 24–29)
- 書誌情報と現物の保管 → 文献整理ソフトの利用、本棚やコピー収納場所の確保
- 文献探索の方法 → 日本語教育学のページ <http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/student/litsurv.html> や図書館の冊子『情報探索の基礎知識』 http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/supp/?cat_id=3 を参照

3 来週の予定

来週の授業は図書館見学をおこないます。

- 10:30 に図書館入口に直接集合
- 学生証 (図書館入館証) をもってくる

授業内容はおおそつぎのような予定です (図書館と相談中なので、変更の可能性あり)

- (1) 学閲・グローバルフロアなどを見学
- (2) 2号館の和雑誌の配置を理解する
- (3) 経済統計コーナーの官庁統計等の配置を理解する
- (4) 書庫で分類番号から関心分野を探し、書棚から自分の関心のあった図書を選ぶ (30分程度)

4 再来週の予定

再来週は、各自の考えている内容についての「マインドマップ」をつくります。色ペンを (できるだけ多種) もってくる

文献

日経 BP 社 (2010) 『実践ノート&書類術』 (日経ビジネス Associe スキルアップシリーズ) 日経 BP 社.

現代日本論基礎講読「研究法入門」

図書館見学実習

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 図書館書庫の使いかた

1 図書館見学

- 10:30 に図書館入口に直接集合
- 学生証 (図書館入館証) をもってくる

見学内容と目的:

- (1) 学閲・グローバルフロアなどを見学
- (2) 2号館の和雑誌の配置を理解する
- (3) 経済統計コーナーの官庁統計等の配置を理解する
- (4) 書庫で分類番号から関心分野を探し、書棚から自分の関心のあった図書を選ぶ (30分程度)

[課題] 自分の興味のある本を1冊以上探す。探した本について、カウンターで借り出しの手続き

- 図書館内の資料所在と配列を把握する
- 書庫内の本の分類はどのようになっているか?
- 分類記号・請求記号の仕組み
- 静かに、節度を守って探索すること

2 注意事項

東北大学附属図書館では、学部生が本館書庫を利用するには、「書庫利用ガイダンス」を受ける必要がある。<http://tul.library.tohoku.ac.jp> で開催日程を確認して、受講しておくこと (申込時に教員の承認印が必要)。

3 宿題と来週の予定

- 今日借りた本について、書誌情報と内容、自分の研究にとってどういう点で役立ちそうかをまとめて提出 (A4用紙1枚)
 - 来週は、各自の考えている内容についての「マインドマップ」をつくります。色ペンを (できるだけ多種) もってくる
- こと。

文献

国立国会図書館 (n.d.) 「国立国会図書館分類表」 <http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/ndl_ndlc.html>

東北大学附属図書館 (2012) 『「レポート力」アップのための情報探索入門』 <http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/supp/?cat_id=

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第6講 アイディアの創出

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] アイディアを出してまとめていく方法

1 前回 (図書館見学) について補足

- 本棚を眺めることの重要性
- 分類番号・請求記号・件名 → 図書館検索 (OPAC) 結果の読みかた
- 図書館講習会、学生選書など
- 図書館サイト <<http://tul.library.tohoku.ac.jp/>> の「お知らせ」

2 文献・資料の探しかた

本を探す

- 書店・図書館
- CiNii Books: <http://ci.nii.ac.jp/books/>

雑誌論文を探す

- CiNii Article: <http://ci.nii.ac.jp>
- Google Scholar: <http://scholar.google.co.jp>

そのほか、各専門領域のデータベースやリンク集など:

- <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/zinbun.html>
- <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/kanren.html>
- <http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/student/litsurv.html>

そのほか、芋づる式、人に聞く、マスメディア、インターネットの利用

3 口頭発表

東北大学や仙台周辺では、さまざまな学術的な催しが行われている。学術的な口頭発表に触れておくことは、学術的な表現方法を習得するという観点からも重要である。必ずしも自分の研究対象でなくとも、様々な分野の学会・研究会・ワークショップ・講演会などに参加してみるとよい：

- 東北大学のニュース: <http://www.tohoku.ac.jp>
- 文学部のニュース: <http://www.sal.tohoku.ac.jp/index-j.html>
- はぎのすけ (図書館 Twitter アカウント) <http://twitter.com/hagi_no_suke>
- 田中によるブックマーク: <http://b.hatena.ne.jp/remcat/東北大学>

4 マインドマップ

「ミニマインドマップ」(別紙参照)をまず書いてみる。何枚か書いてみて、それを集積して「フルマインドマップ」を書く。

- アイディアの洗い出し
- 情報の整理
- 足りない情報や課題の整理 → 今後の情報収集

大きな紙と色ペンを用意するとよい(月刊ビジネスアスキー編集部, 2010, pp. 12-17)。

5 KJ法

教科書 pp. 110-116

- マインドマップとはちがい、こまかいところからつくりはじめる
- 適切な大きさの「ラベル」をつくれるかどうかポイント

6 類似の手法

- 問いと答えのリスト
- 文章や発表の構成を大きな紙に書く
- アウトラインプロセッサ
- マインドマップと同様のことは、PC上でもできる

7 宿題

自分がレポートで取り上げる内容について、現段階でのマインドマップを完成させる。次回の授業時に持ってくること。

文献

月刊ビジネスアスキー編集部(2010)『本当に頭がよくなるマインドマップ“かき方”超入門』アスキー・メディアワークス。

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第7講 アイディアの交換

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 研究のアイディアについての意見交換

1 意見の交換

【課題1】各自が作ってきたマインドマップを見ながら、グループで意見交換する

- 5分程度で説明、そのあと意見交換
- 思いついたことはとりあえず口に出してみる
- 今の段階では、最終的なレポートの形や、厳密な理論展開や根拠については保留しておいてよい

2 その他のアイディア創出方法

- カードの利用: 「KJ法」など → 教科書 pp. 110–116
- 構成表 (大枠がすでに決まっている場合) → 木下 (1981, p. 53)
- コンピュータの利用 (アウトラインプロセッサなど)

3 宿題

自分がレポートで取り上げる内容について、配布資料 (大島ほか, 2005, p. 37) を参考にして、「問いと答え」の表を作成。次回授業時に2部持ってくる (1部を提出、1部は授業で使用。)

4 今後の予定

- グループで面接 (レポートについて): 12/19,24,25; 1/6,7,8
- レポート内容について発表: 1/9,16 授業
- 口頭試問

文献

川喜田二郎 (1967) 『発想法』 中央公論社.

川喜田二郎 (1970) 『続・発想法』 中央公論社.

木下是雄 (1981) 『理科系の作文技術』 中央公論社.

大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂 (2005) 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現: プロセス重視のレポート作成』 ひつじ書房.

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第8講 議論を組み立てる

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 厳密な思考と建設的な批判

1 課題

作成してきた問いと答えの表について、意見を交換する。

- 批判的に
- 細かいところの論理的整合性
- 全体的な一貫性
- 自分のもっている知識との矛盾

2 注意すべきポイント

概念と用語

- 定義と意味
- 実際の用法
- 当てはまるものと当てはまらないもの
- 他の概念との関連

論理

- 前提
- 必要条件と十分条件
- 逆や裏を考えてみる

データ

- 対象
- 測定と分析の方法
- 測定の妥当性・信頼性再現性
- 結果をどのように解釈するか
- どのように一般化できるか

- 直観と内省

推論

- 確率と統計的推測
- 場合わけは網羅的か
- 複数の推論の組み合わせ

価値判断

- さまざまな価値基準
- 一貫性

3 発表会

1/9,16 の授業では、各自の発表をおこなう

- 発表内容についての資料を13部用意する(初回資料にしたがって簡潔にまとめる)
- グループ内で「紹介者」を決めておく
- 紹介者から研究内容を紹介(3分)、そのあと自由に質疑(9分)
- 紹介者との間で事前に打ち合わせしておくこと。グループで集まるのが望ましいが、できない場合はメール連絡等でもよい

4 口頭試問

授業最終週に、グループで口頭試問をおこなう。1人20分程度。時間と場所はグループごとに決める。

発表会の時の資料から改訂した部分がある場合は改訂後の資料を持ってくること。試問ではいろいろなことを聞かれる可能性があるので、参照する可能性のある資料を準備しておくこと。

口頭試問の際に提出された資料をレポート確定版として採点。